

平成22年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	りんご「黄香」の裂果を軽減する摘果時期		
[要約]					
「黄香」は粗摘果をできるだけ早期に行い落花60日後を目安に仕上げ摘果を行なうことによって収穫期の裂果が軽減される。					
キーワード	りんご	黄香	裂果軽減	技術部園芸研究室	

1 背景とねらい

岩手県オリジナルりんご品種「黄香」は、9月下旬に成熟する黄色品種で、着色管理を必要とせず、省力化を図ることができ、食味が良好なことから平成14年度に奨励品種となっている。しかし、縦割れの裂果が発生するとともに、収穫前落果も認められるため、その対策技術の確立が求められており、平成20年度の研究成果では「黄香」の樹上裂果軽減対策が報告されたが、目的とする果実の大きさに仕上げる方法など課題が残されていた。

そこで、「黄香」のさらなる安定生産技術の確立を目的として、摘果による裂果軽減技術を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 裂果を軽減する摘果時期は以下のとおりとする。
 - 1) 1花そう1果とする粗摘果をできるだけ早期に行なう。
 - 2) 仕上げ摘果は落花60日後を目安に行なう。摘果にあたっては、下記の成果の活用面・留意事項を参酌する。
 - 3) 以上の方法で、果実品質や翌年の花芽率を確保しながら裂果を軽減することができる(表1、図1、2)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 適正着果数は、4～5頂芽に1果とする。なお、「黄香」の若木(5～8年生)については、幹周と頂芽数との相関が高いことから、本試験では着果数を穂木の幹周(接ぎ木部上部から10cmの部位)1cm当たり4果とした。【着果数(果) = 幹周(cm) × 4】
- (2) 本試験では、全試験区で1花そう1果とする粗摘果を落花10日後に行った。
- (3) 目標果実重は400g以下とする。
- (4) 仕上げ摘果の際には肥大の進んでいる果実も摘果の対象とし、中庸の果実に揃えることによって果実品質のバラツキを少なくすることも必要である。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
県内全域の「黄香」生産者
- (2) 期待する活用効果
黄香の裂果軽減により、生産性の安定化が図られる。
(普及見込み面積: 18.5ha。H20春までの供給苗木本数 18,514本)

5 当該事項に係る試験研究課題

- (H15-38) 新品種などの安定生産技術の確立
(1000) 「岩手6号」の安定生産技術の確立 [H15～H22、県単]

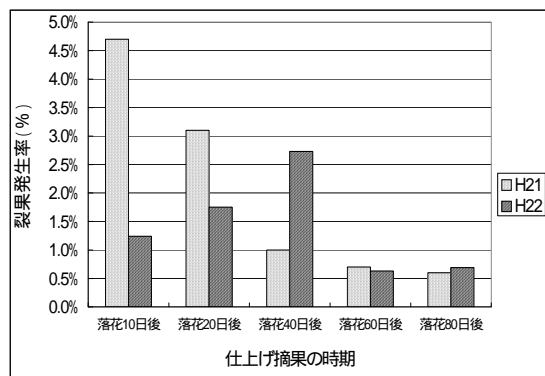
6 研究担当者

島山隆幸

7 参考資料・文献

- (1) 平成16～19年度 岩手県農業研究センター 果樹試験成績書
- (2) 平成14年度試験研究成果りんご9月下旬に成熟する省力的な黄色品種「岩手6号」
- (3) 平成18年度試験研究成果りんご「黄香」の収穫適期判断基準と判定用カラーチャートの作成
- (4) 平成20年度試験研究成果りんご「黄香」の樹上裂果軽減対策

8 試験成績の概要（具体的なデータ）



試験条件

台木：JM7

樹齢：6年生（2010年4月）

粗摘果実施日：2009.5.22、2010.6.2

試験規模：1樹5反復

図1 仕上げ摘果時期と黄香の裂果発生率

※調査日：H21.9.17（満開131日後）、H22.9.27（満開131日後）

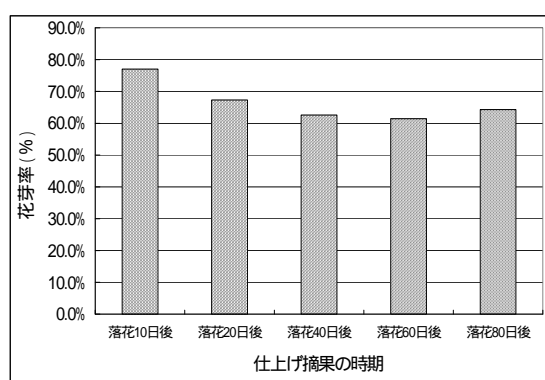


図2 黄香の花芽形成に与える仕上げ摘果時期

※調査日：H22.5.20

表1 摘果時期別の果実品質（摘果処理試験）

年次	仕上げ摘果時期	果重 (g)	糖度 (%)	カラーチャート指数	縦径 (mm)	横径 (mm)
H21	落花10日後	488.1	12.5	4.6	105.8	103.9
	落花20日後	401.3	12.7	4.9	91.4	96.3
	落花40日後	407.6	12.3	4.8	95.6	96.8
	落花60日後	500.1	12.2	4.4	97.2	104.3
	落花80日後	474.4	12.2	4.4	96.7	102.1
H22	落花10日後	355.5	12.2	4.8	88.9	90.5
	落花20日後	324.7	11.9	4.8	85.5	88.9
	落花40日後	337.4	12.1	5.1	87.8	90.3
	落花60日後	402.0	12.0	5.0	92.4	96.3
	落花80日後	382.1	11.9	5.0	90.6	94.7

※糖度は非破壊糖度計を用いて測定した。

※10果5反復の平均値。